

# けあ・こみニュース

2018年4月 No.4

発行者：日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会  
広報委員会：菊地春夫・根本佳奈・荒井隆浩  
井堂愛子・濱出昌子・山田幸恵・中島鈴美  
ホームページ：<http://caring-jp.com/>

## 第8回日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会全国大会 しまね縁結び大会「縁、再び…そして愛」

2018年7月7日(土)・8日(日)開催

### 大会長挨拶

出雲エスポアールクリニック院長 高橋幸男

第8回脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会を島根県出雲市で開催することになりました。本学会は、2010年に第1回大会を島根県で行っていますから今回が2度目ということになります。

第1回大会は、大会テーマを「えん～縁・援・円・延・宴～むすび」として行いましたが、第8回島根大会のテーマは「縁、再び…そして愛」としました。島根県は、第1回大会以来、専門職や当事者・家族などすべての関係者による「ネットワーク会議」や当事者・家族を中心にした「らぶらぶコンサート」を継続して開催してきました。人口の少ない過疎県ですが、その分顔が見えて関係者間のつながりがスムーズです。本学会の趣旨でもある「ケアリング」は、支援する側も支援される側もともに学び合い成長していくことを目指していますが、私たちもこの間当事者の人達から多くのことを学びながらともに成長してきたと思います。そこには縁があり愛があると思っています。

本学会がアカデミズムに加えて、当事者の方も企画から参加し、ともに運営していく学会として、島根らしさを伝えたいと思っています。

多くの方のご参加をお待ちしています。

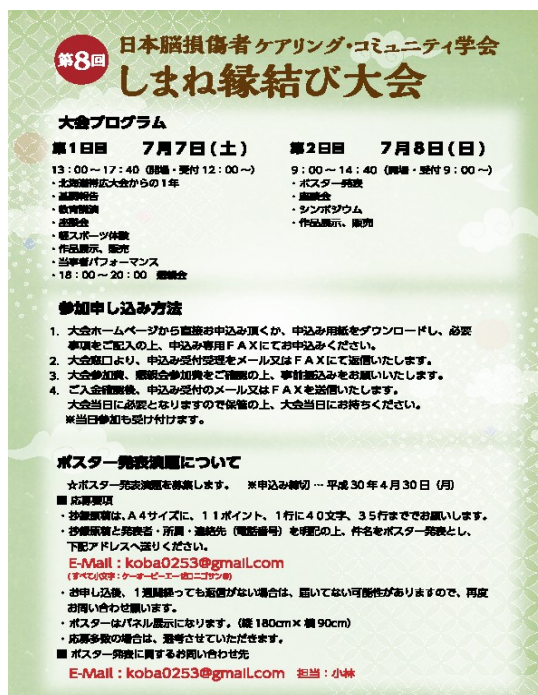
学会ホームページ：<http://caring-jp.com/wp/infomations/>



第8回 日本脳損傷者  
ケアリング・コミュニティ学会  
しまね縁結び大会  
「縁、再び…そして愛」  
～地域の中に新たな縁を築く～  
Awakening... Challenging... Caring...

日 時 2018年 7月7日(土)・8日(日)  
13:00～17:40 9:00～14:30  
会 場 ビッグハート出雲(島根県出雲市東町1丁目5番地)  
出雲市駅南口徒歩約1分  
大会長 高橋幸男 (エスポアールクリニック院長)

大会に関するお問い合わせ  
エスポアール出雲クリニック TEL 0853-25-3949 担当 山口 新・黒田  
E-mail [enmusubi201807@gmail.com](mailto:enmusubi201807@gmail.com) ホームページ <http://caring-jp.com/>  
主催/一般社団法人日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会  
学会事務局 〒154-0002 東京都世田谷区下馬2-20-11小塚ビル303 TEL/FAX 03-5432-9338



第8回 日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会  
しまね縁結び大会

大会プログラム

| 第1日目 7月7日(土)                                                                                                                     | 第2日目 7月8日(日)                                                       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 13:00～17:40 (開場・受付 12:00～)<br>・北海道開大会からの1年<br>・基調報告<br>・教育講演<br>・座談会<br>・軽スポーツ体験<br>・作品展示・販売<br>・当座報告パフォーマンス<br>・18:00～20:00 懇親会 | 9:00～14:40 (開場・受付 9:00～)<br>・ポスター発表<br>・座談会<br>・シンポジウム<br>・作品展示・販売 |

参加申し込み方法

- 大会ホームページから直接お申し込み頂くか、申込み用紙をダウンロードし、必要事項をご記入の上、申込み専用FAXにてお申込みください。
- 大会窓口より、申込み受付受理をメール又はFAXにて返信いたします。
- 大会参加費、懇親会参加費をご依頼の上、事前申し込みをお願いいたします。
- ご入金確認後、申込み受付のメール又はFAXを送信いたします。  
大会当日に必要となりますので保管の上、大会当日にお持ちください。  
※当日参加も受け付けます。

ポスター発表について

★ポスター発表を募集します。 ※申込み締切 平成30年4月30日(月)

■ 応募要項

- ・抄録原稿は、A4サイズに、11ポイント、1行に40文字、35行までお願いいたします。
- ・抄録原稿と発表名・所属・連絡先(電話番号)を明記の上、件名をポスター発表とし、下記アドレスへ送ってください。

E-Mail: [koba0253@gmail.com](mailto:koba0253@gmail.com)  
(すべて@マーク・クォーバー・ドット・コムで)

- ・お申し込み後、1週間経っても返信がない場合は、届いていない可能性がありますので、再度お問い合わせ願います。
- ・ポスターはパネル展示になります。(縦180cm×横90cm)
- ・応募多数の場合は、選考させていただきます。

■ ポスター発表に関するお問い合わせ先  
E-Mail: [koba0253@gmail.com](mailto:koba0253@gmail.com) 担当: 小林

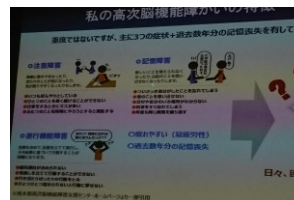
# 「伝え合うことから始める ～私達の高次脳機能障害～」

2017年12月2日開催 会場：JR東京総合病院

プログラム1：「当事者たちが伝える高次脳機能障害」

プログラム2：「興味を活かして当事者と  
市民がつながりあう」

プログラム3：「それぞれの回復への歩み」



## アンケートより抜粋

- ◆ 当人の意見が聞けたことでどんな気持ちをもっているか、何が困っているかがわかりサポートする時の注意点が見えた気がします。
- ◆ 当事者の方たちの大変な努力、勉強には感心しました。こうなるまでには長い時間がかかることもわかりました。
- ◆ 本で読むのとは違い、当事者の方の説明はとても説得力がありました。
- ◆ 当事者からの生の声を聞く機会ができ、大変意義深かった。
- ◆ とてもよかった。楽しい、できるはキーワード
- ◆ せっかくのよい取り組みなので、広く知れ渡る仕組みがあるとよいと思います。
- ◆ 自分の得意なことを活かし、当事者に関わるということで「高次脳機能障害」について専門知識がなくとも関わりから理解を深めていく方法があると感じた。
- ◆ 1人暮らしや就労についてご本人から話が聞けて良かった。
- ◆ 『同じ目線で話せる人がいい』という言葉が心に残りました。
- ◆ 支援者が支援されていると感じる。共存、共生の不思議さが面白かった。
- ◆ 機能面、社会面について“伴走者”がいて”あきらめない”取り組みの大切さを教えていただきました。
- ◆ 障害の受容の考え方など大変興味深い話でした。

## 「不安・困りごと・心配事の3者間比較について」

研修委員会

『伝え合うことから始める～私たちの高次脳機能障害』研修会において、当事者、家族、医療・福祉専門職の3者間の不安・困りごと・心配事について、アンケート調査を行った。（有効回答数74）結果、8項目（福祉サービスの利用、症状、日常生活、金銭面、家族人間関係、就労、趣味余暇活動、その他）についての上位3つの項目は、〈当事者〉①日常生活、②就労、③家族人間関係 〈家族〉①日常生活、②症状、③家族人間関係 〈医療・福祉専門職〉①就労、②福祉サービスの利用、③症状／日常生活であったが、Fisher検定から見ると、福祉サービスの利用と金銭面について、3者間に有意に差がみられ、福祉サービスの利用については、当事者、家族よりも医療・福祉等専門職の方が不安に感じている傾向があり、また金銭面については当事者、医療・福祉等専門職より家族が不安を感じている傾向が得られました。研修委員会では結果を十分に検証し今後の研修企画に活かしていきたいと思っております。ご協力ありがとうございました。



## 第44回 日本保健医療社会学会大会

大会長 細田 満和子（星槎大学・当学会理事）

第44回 日本保健医療社会学会大会を、

5月19日(土)、20日(日)に、

北海道北広島市の星槎道都大学で開催します。

応募資格は学会員であることですが、非会員の方も会員申し込みをしていただくと応募可能です。

大会参加のみの場合は、4月27日にお申し込みいただきますと事前参加登録扱いになり、それ以降は当日参加の扱いになります。

【日時】5月19日(土)、20日(日)

【場所】星槎道都大学（北海道北広島市）

今大会のテーマは、「ヘルス・ガバナンスの可能性」です。

当事者、医療者、行政、企業、地域社会、みんなが参加して問題解決に当たる実践の在り方やモデルの構築を、北の大地で語り合いたいと思います。

メインシンポジウムには、2017年のケアリング・コミュニティ学会の帯広大会でご活躍された、水口迅氏（NPO法人みんなのポラリス代表）と川道昌樹氏（株式会社ワールドワーク代表取締役）にもご登壇いただきます。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。



ヘルス・ガバナンスの可能性  
—地域社会の誰もが参画する保健医療実践に向けて—

## 第44回 日本保健医療社会学会大会

2018年5月19日(土)・5月20日(日)

大会開催地:星槎道都大学(北海道北広島市中の沢149)

大会長:細田満和子(星槎大学)

大会総講演

メインシンポジウム

特別講演

保健医療の現場からの問い

地域から考える保健医療の未来（日本医療・病院管理学会第365回例会共催）

Health Workforce Governance: Problems,

Priorities and Policy recommendations

Stephanie Short (The University of Sydney)

保健医療社会学会における方法論の未来

ブレ30周年記念シンポジウム

一般演題（口演・ポスター発表）

ラウンドテーブルディスカッション

連絡先

第44回 日本保健医療社会学会大会実行委

員会事務局（札幌医科大学保健医療学部看護

学学科公衆衛生学領域内）

Tel&Fax:011-688-5188,

E-mail: jshms44-office@umin.ac.jp)

大会ホームページ

<http://medsocio2018.yupia.net/>

大会案内ホームページ <http://medsocio2018.yupia.net/>

## 学会関連団体紹介【NPO法人日本脳外傷友の会】

理事長 古謝由美

私たちの会は事故や疾患で高次脳機能障害となった当事者、家族会です。

2000年4月に日本脳外傷友の会を設立し、現在、正・準団体併せて62の連合体です。

毎年4月に全国代表者会議を行い、翌日、厚生労働省、国土交通省、文部科学省を尋ね、高次脳機能障害支援について各省庁の取り組みなどをお聞きし、会としての要望など意見交換をしています。また、情報提供としてメール通信やホームページを通じ全国各地で行われているセミナーや講習会情報など、発信し、全国に繋がる友の会の大きな行事である全国大会を毎年、開催しています。開催県に当たった会は準備が大変ですが年1回、全国各地から集まる当事者、家族、支援者の方々の近況など報告し合いながら、交流を深めています。

また、当事者の活動の場として家族会が立ち上げた作業所が各地に出来てきました。

高次脳機能障害者は、小児から高齢の方まで年齢層が幅広く、その支援には終わりがありません。家族だけでは高次脳機能障害者を支えていくことは難しく、一人でも多く支援して下さる方が増えると当事者と家族は地域で安心して暮らしていくことが出来ます。

若い世代の活躍に期待すると共に、今後も皆で力を合わせ進んでいきます。

本学会では、NHK シルクロード撮影者菊地春夫さんを団長に中国障害者との国際交流を6月に予定しています。当時の撮影を振り返り「敦煌」について紹介します。

1979年10月7日、この日蘭州から日中共同取材番組「シルクロード」取材敦煌への旅が始まった。蘭州からは13人のスタッフが乗り込んだ。日本側は、この敦煌首座に同行して頂いたのは、小説家・井上靖先生(故人)をはじめ6人である。当時、飛行機はなく列車とバスで取材を続けた。その年の8月、中国は異常気象に見舞われていた。私達は莫高窟の招待所に泊まる事になった。ここには入浴設備が無く、私は滞在中頃に1回だけ入浴する機会に恵まれた。それは、敦煌の町から10キロ東に行った石油工業部運輸会社の招待所の風呂であった。

私達の飲用食事用の水は敦煌の街から毎日運ばれてくるのである。日中両取材班合わせて10名を超える。いわば余分の人数の水を運ぶのであるから、服務員の努力に改めて感謝ほか無い。現在整理され、見ることの出来る窟は429。窟内に現存する。敦煌莫高窟の名が世界に広まったのは今世紀初めイギリスの地理学者スライとフランスと東洋学者ペリオが大量の書画経巻をわずかな代金と引替えに莫高窟から持ち出し、世に発売してからであった。



以来世に言う「敦煌大皇学」が発生した。というのが常識となっている。印象に残っているいくつかを紹介したい。現在、莫高窟492の窟のうち、最古のものとされているのは5世紀の275窟である。窟全体や仏像の様式などが決められている。一方「銘文」があって、明確に時代を決められる。年代確定のできる窟の様式は他の年代が記入されていない窟の年代を推定する基準になる。美しい唐代の塑像のなかでも白眉の45窟菩薩像である。迦葉、阿難の両脇には左右二体の菩薩が立つ。軽く腰を捻り、首をやや曲げた姿勢、白い肌にくっきりと引かれた眉とルージュ、優しい切れ長の目、すっきりと通った鼻に感嘆の声を上げた。もっと美しい像を選ぶとなると57窟南壁の「樹下説法図」のなかの「右脇侍菩薩」であろう。クローズアップしてみれば、それはただ筆で描かれているのではない。宝石と見えるひと粒が推く盛り上がっている。57窟のそれは美しくしかも完好な形で残っている。全体が強い印象として残っている壁画がある。初唐の321窟に描かれた「阿弥陀來迎図」である。全体にドーム型になっている壁画の上部中央に、雲に乗った阿弥陀如来が描かれ、その下に飛天が舞い、更にその下に天女が並んで散華する。上部の壁画全体が天界を表しているのである。この他、40窟の撮影をした。敦煌の莫高窟を、皆様と一緒できることになり、有意義な旅になる事を願っています。



## 書籍紹介

### 「声に出せない あ・か・さ・た・な ～世界にたった一つのコミュニケーション～」 天島大輔著 生活書院

著者・天島大輔さんは、体調不良で運ばれた病院での医療ミスにより低酸素脳症となり「四肢麻痺、言語障害、視覚障害」を負いました。しかし、「あかさたな話法」という珍しいコミュニケーション方法を編み出し、家族や仲間と共に様々な困難に立ち向かっていきます。天島さんが絶望と奈落の繰り返しからどうやって這い上がってきたのか？そしてその後に光を見出し、人生を面白く彩る工夫など約6年の歳月をかけて書き上げた渾身の一冊です。

### 編集後記：第8回脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会の島根県出雲市大会が開催されます。

これまで・第二回 秋田大会「脳損傷へばなんとす?」、第三回 神奈川大会「地域で生きる、帆をあげて」、第四回 福島大会「起きろよ、起きろ皆起きろ～やってみっぺ七転び八起」、第五回 愛知大会「夢から始まるもの創り!人と道具で未来を照らせ」、第六回 東京大会「ともに学ぶ～つながろう!人と情報～」、第七回 北海道帯広「オベリベリの大いから発信」などです。今年は出雲市で2回目の大会、しまね縁結び大会「縁、再び・・・そして愛」が開催されます。ご期待ください。菊地春夫